

佳作

おかしに想いを込めて

福島県立会津学鳳中学校

3年 佐藤 琉生

「パンケーキにジャムをのせて食べる人がそんなに危険人物であるわけがありません。」これは「たのしいムーミン一家」という本のムーミンママのセリフです。ムーミンママのおおらかで愛情深い性格が感じられるこのセリフは私のおかし作りに情熱を抱くきっかけの一つで、とても印象に残っているセリフです。

私にとって、おかし作りは単なる趣味ではありません。気持ちを落ちつかせたり、自分の気持ちを表したりする一つの方法です。例えば週末の朝にふわふわのパンケーキを焼いてメープルシロップやバターをたっぷりかけて食べる時。部屋中が甘い香りに包まれて、それまでにあった嫌なことも忘れて心も体も幸せな気持ちになれます。また、うれしいことがあったときはカラースプレーやアラザンでデコレーションして自分の気持ちを表現したりします。私にとっておかしを作ることは絵を描くなどの創作活動と同じ感覚なのです。

このように気分を落ちつかせたり、自分を表現することだけでなく、私はおかしを作る過程にも情熱を注いでいます。材料をレシピ通りになるように計量したり、温度を調節しながらテンパリングをするときは理科の実験をしているときに似たドキドキやワクワクを感じることができます。またマカロンやシフォンケーキはヒビが入ってしまったり、うまくふくらまずに歪な形になってしまうなどの失敗が多いので、できあがるまでずっと緊張が続きます。しかし、成功したときの言葉では形容しがたい喜びがあります。この喜びも私がおかし作りに情熱を注ぐ一つの理由なのです。

また、私にとっておかし作りは家族とよりコミュニケーションをとるための一つの方法です。平日は両親共に忙しいので、あまり話できません。しかし、休日に母と一緒におかしを作るときは友達の話や学校の話など普段あまり話さないようなこともおかし作りをしながらだと自然と話すことができます。そして、母と作ったおかしを父や祖父母にプレゼントすることで、それをきっかけに母以外の家族ともコミュニケーションをとることができます。おかし作りは話題づくりにとても良くまた家族との会話も増えるので、家族との絆をより深めることができます。

そして、おかし作りは健康的な食生活の維持にもつながります。例えば、カロリーや糖質が高いものを食べすぎてしまったとき、市販のものでなく自分で

作ることによって砂糖などの量を調整することができます。また、自分で材料を選べるのでアレルギーに配慮をすることもできるので幅広い人におかしを楽しんで食べてもらえます。

おかし作りで得た知識やスキルは日常のさまざまな場面で生かすことができます。例えば、砂糖や小麦粉などの材料の計量や、混ぜる技術、温度管理などはおかし作りではない他の料理でも応用をすることができます。そのため料理全般の腕を上げることができます。実際に、ハンバーグやオムライスなどの少し難易度が高い料理もおかし作りをはじめの前は作れませんでした。最近では作れるようになりました。おかし作りの基礎は料理も通ずるところがあるので、料理も自然と作れるようになっていったのです。またおかし作りを何度も行う過程で得た段取りや時間管理などの要領は、勉強面で特に役立っています。前までは家に帰ってからは宿題をするだけで、他の勉強をする余裕がありませんでした。しかし、おかし作りをはじめからは時間管理が前よりも上手にできるようになり、宿題以外の勉強に手をつけることができるようになりました。そのおかげで今では英語のテストでは、1年生のころに比べて2倍以上の得点をとることができています。

このようにおかし作りは私の人生において欠かせない大切な存在です。おかし作りは私の生活を豊かにし、日常の小さな幸せを見つける手伝いをしてくれています。おかし作りが成功したときの喜びや家族との会話は私にとってかけがいのない幸せです。おかし作りは私を幸せに導いてくれるとても甘くて心温まる魔法のような存在なのです。

いつか、私の作るおかしに込められた想いや情熱が周りの人々に伝わることを願って、これからもおかしを作りつづけます。